

## ご 挨拶

この度、傾斜埋入に特化いたしまして開発されました「TKアングル」のご紹介をさせて頂きたくご案内を申し上げます。

各歯科医様も何度かはインプラント埋入時傾斜して埋入されたというご経験が、或いは傾斜してインプラントを埋入しなければならない症例に悩まされた事がお有りと思存しますがいかがでしょうか。

インプラント埋入時にやむなく傾斜して埋入されてしまった場合、或いは日本人に多い歯槽骨が薄いとされる症例等々に14～16mmの長いインプラントを施術できるようになり、患者様にも負担を軽減できて、咬合圧にもしっかりと耐えうる施術方法として「傾斜埋入」が最近注目されるようになって来ました。

この度、東京目黒区にて開業いたします小幡歯科医院院長の小幡卓郎先生と弊社共同にて開発されました「傾斜埋入」に特化いたしました「TKアングル」の施術例を元に「傾斜埋入」の利点と、施術法をご紹介させて頂きたいと思っております。

この、「傾斜埋入」と「TKアングル」に関しましては2003年8月号のデンタルダイヤモンド誌に特集として掲載されました資料も同封いたしましたので、参考資料と致しましてご査収いただきたくお願い申し上げます。

小幡歯科医院院長の小幡先生は、1980年ごろより傾斜埋入に非常に関心を持ちはじめ、常日頃行っている既存の施術方法に疑問を持ち、構造的にも単純構造で費用の面でも患者に高額な負担がかからず、各歯科医様の裁量により歯列の配列に合わせ、理想的な角度で容易に自由な機能的形態をとることが可能な上部構造体を提供できないかと考え、長年様々な形態を実際に鋳造を行いながら試行錯誤しながら完成に一步一步前進いたしてまいりました。

平成12年(2000年)7月より弊社も開発にお手伝いをさせて頂くようになり、平成17年より本格的に臨床試験用と致しましてご提供させて頂きたく事となりました。

「TKアングル」の基本的な考えは、歯列の配列に合わない角度でフィクスチャーが歯槽骨に埋入された場合に、強度の問題や補綴冠の接着強度が落ちる問題を解決する。或いは歯列の配列に対し審美性、機能性を欠かさず上部構造体と補綴冠とのセメントによる接着面積を多く確保できるか、であり、また基本の施術方法と致しまして歯列の配列に対してフィクスチャーを如何に垂直角に埋入できるかを問われてまいりましたが、如何に垂直角に埋入しようと努力を重ねても傾斜して埋入されることも多く見られ、意思に反して傾斜して埋入された場合にも埋入角度にあわせて各歯科医様の裁量で対応できる上部構造体ができないかです。

これらの問題を解決することで、各歯科医様が意識して傾斜埋入を行うことができるようになり、日本人にも欧米人と同様に12ミリ以上の長いフィクスチャーを歯槽骨

に埋入でき、強度の面でも非常に有利となり、加えて「TKアングル」を使用することにより、より一層理想的で審美的な歯列の配列を形成する理想的な効果を発揮致します。

現在市販されている上部構造体は、ほぼ完全に完成された形態の上部構造体を各歯科医様に提供されているため、歯科治療の際、基本的には切削成型等の後加工を必要としない考え方であります。

そのため、やむなく傾斜して埋入されてしまった場合は、セメントによる接着面積を無視して傾斜埋入された角度を修正するために上部構造体を削らなければならないことになり細い咬頭が更に細くなります。

「TKアングル」は逆転の発想で、従来品と比べて「TKアングル」は完成品ではなく最終形態を各歯科医様が形成しなければならない点にあり、一部未完成ゆえに容易に歯列の配列に合わせて切削矯正ができるような形態で上部構造体を各歯科医様に提供することで、様々な形態の治療に汎用性を持たせたことに大きな特徴があります。

弊社が開発に加わったころはインターネットで「傾斜埋入」と検索しても1件も出てきませんでした。現在は20～30件以上見られるようになり、症例も幾つか掲載されるようになり皆様はかなりご苦労されていますことが判断できます。

現実には、弊社お付き合いの先生方、或いは学会等にてお話させていただきました先生方は、皆さん異口同音に傾斜して埋入される事は当たり前のようにお話ししておられました。

ところが、その先生方も傾斜して埋入された場合のほとんどが鑄造等々により時間と費用をかけて施術されている事が大変多いとのことで、審美的歯列の配列には大変苦労をなさっているようです。

臨床試験用にご提供いたしておりますTKアングルは以下の3点です。

現在はノーマルタイプ、ロングタイプの2点のみご提供いたしております。

- 1、TKアングル ノーマルタイプ（高さ6mm）
- 2、TKアングル ロングタイプ（高さ8mm）
- 3、TKアングル ストレートタイプ（現在生産を中止いたしております）

TKアングルは6-4チタン合金ですが、小幡先生は基本の形状まで切削するのに2～3分程度で製作しており、チタンは切削が大変、と言うイメージが定着いたしておりますが、実際にはそれほど大変な作業ではございません。

小幡先生は現在ITIインプラントのみに対応しておりますが、現在100%TKアングルノーマルタイプを使用しての施術を行っております。

小幡先生はTKアングルノーマルタイプのみでほぼ100%対応可能であり、歯肉の厚い症例の時のみTKアングルロングタイプを使用することで対応可能、と話されております。

また現在ストレートタイプは、TKアングルノーマルタイプを使用することで対応が可能であり、生産は中止いたしております。

目黒駅前にて小幡先生の息子様と親子で医院を運営なさっておりますが、当初息子様はTKアングルを使用するのを大変敬遠しておりましたが、現在ではご自分から積極的に使用するようになり、今では施術の100%をTKアングルノーマルタイプを使用いたしております。

現在はITIインプラント対応のみですが、他メーカー様対応のTKアングルも製作できないか、といったお声もございますので将来的には開発の予定もございます。小幡先生ご自身及び他の歯科医院様のご協力を得まして現在までに450例以上臨床試験を行い、今までに問題となるような事例はございません。

現在はすでに臨床試験用としての試験販売を行っております。日本人は特に歯槽骨が薄いとされ、使用されるフィクスチャーの長さも10mm前後と短いために、咬合圧に耐えうるために14～16mmを埋入した場合と比較いたしまして本数を多く埋入しなければならない、と聞いております。

小幡先生はほとんどの症例で14mm以上を使用しておりますが、その内90%以上が16mmを採用されており、積極的に傾斜させることで一般の症例に比較いたしますと10～30%ほどフィクスチャーの埋入が少ないようです。

御医院様におかれまして、一度アングルヘッド「TKアングル」を使用した施術をお試しいただきましたら幸に存じます。必ずやご満足いただけますものと確信いたしております。

また、この資料をご査収いただきまして、ご意見、ご鞭撻等戴けましたならば幸いに存じます。

どうぞ宜しくお願い申し上げます。

敬具

追伸：2003年8月号に掲載されました小幡先生の「インプラントの傾斜埋入を考察する」を添付いたしましたのでご参考になりましたら幸いです。

有限会社 クレオワークス

〒253-0111

神奈川県高座郡寒川町一之宮 1-12-1 リバーコート 2-C

TEL 0467-73-0212 FAX 0467-67-8420

mail: info@creo-works.co.jp

URL: <http://www.creo-works.co.jp/>

携帯電話090-4823-9400

担当者 志村 建一